

会 議 録

会議の名称	令和元年度所沢市自立支援協議会 第1回定例会
開催日時	令和元年5月9日(木) 午前9時30分から11時30分
開催場所	所沢市役所6階604会議室
出席者の氏名	会 長 鈴木 喜代子 委 員 綾部 美由紀、野崎 裕子、加木屋 小夜里、 豊田 淳一、水分 菜美子、櫻場 敬子、 青木 咲奈枝、栗原 理枝子、川戸 政徳、 川邊 美佐子、宮武 奈津、高畠 学人、 北 敦夫、鈴木 恭子、並木 理、小内 正秋、 松本 弘、沼倉 二美子、山口 崇、金子 圭秀 オブザーバー 後呂 由紀子
欠席者の氏名	谷田 悦男、大門 竜司、三枝 将史、小林 ヒデ子
議事	1 自立支援協議会及び部会の編成について(案) 2 平成30年度各部会活動報告について 3 令和元年度各部会活動計画について 4 平成30年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告 について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 所沢市自立支援協議会委員名簿及び部会編成(案)</li> <li>・ 所沢市自立支援協議会説明資料</li> <li>・ 障害者総合支援法(抜粋)、所沢市自立支援協議会運営要綱</li> <li>・ 各部会活動報告書</li> <li>・ 各部会年間活動計画書</li> <li>・ 相談支援事業実績報告書</li> </ul>
担当部課名	福祉部長 瀬能 幸則 福祉部次長 並木 和人 障害福祉課 森田課長、松井副主幹、宇貫主査、鈴木主査、 岩崎主査、山田主任、松下主任、星野主任、 林主任 こども福祉課 小川課長、長谷川主査 保健センター健康管理課 山崎主幹、小野寺主査 (事務局)福祉部障害福祉課 04-2998-9116

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	1 開会
	2 委嘱状交付式
	3 あいさつ
委員・事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部長あいさつ</li> <li>・ 委員あいさつ</li> <li>・ 事務局あいさつ</li> </ul>
	4 会長・副会長の選出
委員・事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員より会長に鈴木 喜代子 氏、副会長に谷田 悦男 氏が挙げられ、全会一致にて承認。</li> </ul>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長あいさつ</li> </ul>
休 憩	
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所沢市自立支援協議会運営要綱第 5 条第 2 項により会長が議長となる旨の確認。</li> <li>・ 会議は所沢市情報公開条例第 2 5 条により原則公開であること、会議録の記載方法については要約方式をとること、発言者名の記載については省略とすることの確認。</li> <li>・ 傍聴希望者数の確認。（傍聴希望者 2 名）</li> </ul>
	5 自立支援協議会について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援協議会についての説明及び要綱等の確認。</li> <li>・ 委託相談支援事業についての説明。</li> </ul>
	6 部会の編成案について
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会編成案についての説明及び事務局案の提案。 大きな変更項目は部会長の変更及び副部会長の廃止。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局案を全会一致にて承認。</li> </ul>
	7 平成 3 0 年度各部会活動報告について
	8 令和元年度各部会活動計画について
委 員 (さぼっと)	<p><b>こども部会平成 3 0 年度活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定例部会は平均 2 0 機関 2 3 名の参加。委員である市内小学校の先生、学区(市外含む)の特別支援学校 3 校の先生も参加し、継続的なネットワークづくりの場となっている。</li> <li>・ 事例検討会は、平均 2 2 機関 2 7 名の参加。参加者も責任者クラスの職員ではなく現場の職員が参加できるよう、調整している事業所もある。アイデアの内容も支援者が一人で考えることには限界があり、複数機関によるアイデア出しにより、支援者の支援のヒントになることがあった。</li> <li>・ 平成 3 0 年度に設置された「医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場」について、事前協議を行い運営内容についての起案を提示し、年 2 回の会議に出席した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後等デイサービス事業所見学会では、参加者のアンケートで満足度が平均4.8（5段階）と高く、企画を継続的に行ってほしいとの意見もあった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不足している社会資源（短期入所事業所、医療的ケアを行う事業所、移動や外出の支援を行う事業所等）の提供体制の整備・充足に向けた取り組み。</li> <li>・ 新たな地域課題の抽出（障害児通所支援事業所の療育、運営の質の担保等）</li> <li>・ 学齢期の関係機関とのネットワーク構築・強化（特に所沢市内の小・中学校への具体的な働きかけ）</li> <li>・ 第4次所沢市障害者支援計画の推進に向けた進捗管理（主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の設置）</li> </ul> <p>こども部会令和元年度活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマは【こどもの支援体制の充実にに向けた仕組みづくりを進める】</li> <li>・ 定例部会の開催（年6回、奇数月第4（7月は第3）水曜日）</li> <li>・ 事例検討会の実施（年5回、偶数月第4水曜日）</li> <li>・ 研修会等の開催（①サービス提供事業所の支援者等を対象とした研修会、②学区の小・中学校及び特別支援学校の教員等を対象とした放課後等デイサービス事業所の見学会）</li> <li>・ 相談支援専門員・行政職員向け 通所支援事業所定期巡回（年5回程度実施予定）</li> <li>・ 地域課題解決に向けたワーキングチームの設置</li> </ul>
<p>委員 （どんぐり）</p>	<p>こころ部会平成30年度活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時宿泊事業やアウトリーチ支援事業の説明を受け、理解を深めるとともに活用について検討することができた。</li> <li>・ 各就労移行支援事業所から支援体制・支援内容・実績等の説明を受け、施設の理解を深めた。加えて生活面や家族の問題を抱えている利用者を支援するために相談支援事業所との緊密な連携が求められている実態を把握できた。</li> <li>・ 職員交換研修においては、互いの施設の理解を深めるとともに日頃の業務の振り返る機会になり、さらには職員間の顔の見える関係づくりに貢献している。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院のソーシャルワーカーと情報交換を行い交流する機会を設けたが、病院と地域の連携が不十分であるとの問題意識は強い。連携を強化するための具体策が求められる。</li> <li>・ 地域包括ケアシステムについての研修が延期されたが、協</li> </ul>

	<p>議の場の設置に向けて準備を進める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者への理解やケース対応の方法など専門的なスキル向上のため、事例検討の機会を増やすことが必要。</li> </ul> <p><b>こころ部会令和元年度活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定例部会の開催（年7回、第3火曜日）</li> <li>事例検討会の実施（年2回、8月・2月第3火曜日）</li> <li>研修会等の開催</li> <li>事業所職員交換研修 10月～11月</li> <li>新人職員研修</li> <li>病院と福祉の担当者連絡会の開催。担当者レベルの連携強化を目的に定期的に情報交換をする場を設ける。</li> </ul>
<p>委員 （基幹相談センター）</p>	<p><b>くらし部会平成30年度活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市立の障害児者通所支援施設利用者、保護者を対象に地域の防災訓練への参加状況に関するアンケート調査を実施し、重度の障害がある人が防災訓練に関心はあるがほとんど参加できていない状況があることがわかった。</li> <li>手をつなぐ親の会(肢体不自由児部会)定例会に出席。災害時の障害者支援に関するくらし部会での協議状況や、地域生活支援拠点整備に関する協議の進捗について説明した。</li> <li>差別解消の関するチラシを作成し手しごと展で配布した。</li> <li>7月に条例が施行され、障害福祉課で出前講座などの啓発を行っている。件数は少ないが、相談があった事例は差別解消地域協議会で協議している。差別解消地域協議会とあわせん調整委員会で実際の事例を使い協議を行った。</li> <li>障害者の意思決定支援について小澤教授を講師に迎え施設職員等現場職員向けと相談支援専門員等地域生活支援を行うソーシャルワーカー向けの内容で2回開催した。合計125名の参加があった。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の障害者支援に関することや不足する地域資源に関する協議については市の施策で取り組むべき課題と部会で取り組む課題を整理しながら進める必要がある。部会では事例について積み上げを行う。まずは9月の防災訓練への参加の促しや地域との調整を図る。</li> </ul> <p><b>くらし部会令和元年度活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定例部会の開催（年11回、第3金曜日）特に災害時の障害者支援に関する協議では国立障害者リハビリテーションセンター北村先生に助言をいただき、防災訓練への参加について個別事例を収集するため市内障害福祉施設等への協力を依頼。障害種別ごとに利用者に依頼し支援者と一</li> </ul>

	<p>緒に防災訓練に参加しそこでの気づきや課題を整理する。対象者や同行する支援者必要な福祉サービスの調整、受け入れをする地域住民との事前調整などを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会等の開催</li> <li>・ 障害者が利用できる地域資源の開拓に関する協議に関して、介護保険関係事業所に対して障害者の受け入れや共生型サービスに関する認識調査を行い、関心がある事業所へさんとめでの取り組みの説明を行うなど促進を図る。</li> </ul>
<p>委員 (基幹相談センター) ↓ 活動計画部分から委員交代 (ぽぷり)</p>	<p><b>しごと部会平成30年度活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>【就労関係機関連携強化チーム】</b> ⇒協議終了 「所沢市就労支援事業所紹介パンフレット」作成。市内事業所の情報を共有し、就労支援希望者へ適切な情報提供をするとともに、事業所間の連携強化のためのツールとして利用することに期待している。</li> <li>・ <b>【就労移行に関する課題解決チーム】</b> ⇒協議終了 相談支援部会と調整し「就労移行支援利用時における支給決定のプロセスに関するフロー」作成。今後、支援課題が多い利用者や利用が不安定な利用者、特別支援学校学卒生などを対象に丁寧なモニタリングのためのツールとして地域で運用していくことが期待される。</li> <li>・ <b>【工賃向上・仕事の間開拓チーム】</b> ⇒協議継続 工賃アップの取り組みの一環として市内の食品を販売している就労継続支援 B 型事業所を中心とした「ぷらっとまーけっと」(販売会)を開催。盛況で多くの来場者があった。今後集客予測や広報などの課題を整理しさらに地域のイベントなどと連携しながら定期的を開催したい。軽作業や内職等の共同受注の仕組みについても話し合いを開始した。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工賃アップや仕事の間開拓は継続して協議する。地域の企業や農家などからの作業依頼が複数件あり、作業の受注方法について関係機関で協議し仕組みづくりをする。</li> <li>・ 就労支援に関する制度も変わり、関係機関の役割やニーズも変化している。今後各支援機関が連携して利用者に対してよりよい支援をする為の話し合いの場が必要。</li> </ul> <p><b>しごと部会令和元年度活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度からぽぷりが部会長に就任。</li> <li>・ 定例部会の開催(年10回、第3木曜日)引き続き課題ごとにグループを作り、少人数での討議を行う。(グループごと隔月で開催)工賃アップや仕事の間開拓に関する協議については、ぷらっとマーケットの継続開催。各支援機</li> </ul>

	<p>関が連携した就労支援を提供できる仕組みを作るために、支援の流れの中での各支援機関の役割の整理等の取組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会等の開催 (①内職・軽作業等共同受注事業所の見学、②市内就労支援B型等の事業所見学)</li> </ul>
<p>委員 (基幹相談センター) ↓ 活動計画部分から委員交代 (しあわせの里)</p>	<p><b>相談支援部会平成30年度活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報酬改定について4月に不明点の確認を行い、早い段階で対応した。</li> <li>・ グループホームや就労系サービスの支給決定の流れについてなど、地域課題について共有した。</li> <li>・ 各相談支援事業所が抱える課題について意見交換をした。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定計画相談事業所の相談件数が多く、事業所が疲弊している。令和元年度は委託と特定をグループ化し特定事業所のフォローアップを強化する。相談支援の役割分担が円滑にできるよう部会の中でも確認していくことが必要。</li> <li>・ 計画の質を高めるための研修を定期的に行うことにしていたが、他の課題もありなかなかできなかった。部会内で行うか別の機会で行うかを検討する必要がある。</li> </ul> <p><b>相談支援部会令和元年度活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度からしあわせの里が部会長に就任。</li> <li>・ 定例部会の開催(年6回、第1金曜日) 新任の相談支援専門員が安心して業務を行うため、制度や報酬改正、事務の進め方などの具体的なマニュアル等の作成を行う。</li> <li>・ 相談支援専門員が担当するケースにおいて、3障害の児者全ての知識を求められることが多いため、あらゆる対象者に対応する支援方法や視点などを学んでいく必要がある。</li> <li>・ 指定特定の事業所の相談支援専門員の支援技術の向上や負担軽減のため、委託事業所でフォロー体制を作ることとなった。機能しているかどうかを定期的に確認する。</li> <li>・ 研修会等の開催(年5回、GSV研修)</li> </ul>
会 長	<p>本来であれば、みなさんから質問をお受けするのですが、時間の都合上、1問・2問に限定させていただきます。 ご質問、ご意見はございますか。</p>
委 員	<p>各部会の開催場所や時間などについて教えて欲しい。</p>
	<p>会議終了後に部会ごとにご説明いたします。 また、本日言えなかったご意見などは各部会の中で、ご発言いただければと思います。</p>
	<p>9 平成30年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について</p>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数は資料のとおり。</li> </ul>

<p>(さぼっと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体の相談件数については、前年度より96件の増加。委託相談は前年度と比べて、相談件数が54件の増加。また新規の利用者は16名、児から者への移行前後の世代(16～20歳)の保護者からの相談に対して、日中活動や就労先などの社会資源についての情報提供が多かった。</li> <li>• 過去に虐待を受けたことのある児童や要保護児童対策協議会の対象ケースなど、多機関による包括的な家族支援が継続的に必要な相談に対応している。</li> <li>• 不定期で障害児相談支援事業所の相談支援専門員へのスーパーバイズを行っている。</li> <li>• 障害者福祉施設の従事者からの虐待に関する通報を1件、関係機関としてコアメンバー会議への参加を2件、それぞれ対応した。継続対応ケースは5件。</li> </ul>
<p>委員 (しあわせの里)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 件数は資料のとおり。</li> <li>• 全体の相談件数や利用者数は前年度とほぼ同数で推移。</li> <li>• 家族が機能しておらず本人の支援が必要となるケース、家族の高齢化により介入が必要になるケースなどが増えている。課題が複雑に絡んでいるため、一つ一つ丁寧にほぐしながら優先順位をつけて対応することが必要。家族の形が変化してきており、どこまで家族としての役割を求めてよいのかという課題も出てきている。また、身寄りの全くいない単身者は、サービス利用の希望があっても緊急連絡先などの確保ができない場合が多く対応に苦慮している。</li> <li>• 社会福祉士や精神保健福祉士といった専門知識以外に、高齢者の介護分野や児童分野の知識、医療知識も必要となる事例が増加。ケース自体が複雑化しており、本人の支援だけでなく、家族支援が必要なケースが増加している。</li> <li>• 部会全てに参加し、指定特定相談支援事業所や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に助言等を行っている。</li> <li>• 他市からの国リハ利用者が退所後も在住する、国リハ利用のための転居など、福祉サービス利用者が多くなるため、同行援護や長時間の身体介護などのサービスに対応できる事業所自体が慢性的に不足していると感じている。</li> </ul>
<p>委員 (ぽぷり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 件数は資料のとおり。</li> <li>• 相談者数は上半期の172人から下半期257人と大幅増加。緊急対応など困難なケースが多いが、関係機関との連携により福祉サービスの利用に繋げている。生活困窮や単身生活でキーパーソン不在のケースなどは引き続き委託相談を継続し、安定した生活に向けた支援をしている。</li> <li>• 今年度から専従の相談員が増えたので、引継ぎ等の事業所</li> </ul>

	<p>状況の整理を終えて、受け入れ態勢を整えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的に本人・家族に対しての支援が必要なケースが多く、長期にわたる対応となっている。</li> <li>・ 長期の在宅生活が続く方に対し、家族へのフォロー、障害福祉サービスに繋げる支援、就労移行事業所から就職し福祉サービスが終了した方への継続的な対応を行い、人間関係や家族について等の生活面の相談を多く受けた。</li> <li>・ 生活困窮のケースでは関係機関との連携を密に行っているが、単身生活者が多く、キーパーソンが不在なケースもあり、一日中電話対応を行うこともあった。行き場がない方が事業所で日中を過ごすこともあり、担当相談員だけでの対応は難しく、事業所全体でサポートし対応を行った。</li> <li>・ 福祉サービス事業所を利用中の方も、利用者本人の加齢による心身状態の変化や疾病等により、事業所での日中の活動内容や設備が合わなくなったケース、家庭の状況の変化（親の高齢化、就労、病気等）で事業所への送迎や降所時間が合わなくなったという相談を受けた。事業所ごとに、本人や家族の状況に合わせて対応・支援できる幅に違いがあり、通いなれた事業所を変更するケースもあった。</li> <li>・ 家族の高齢化や急病により、緊急的な対応を要するケースが増加した。即時対応は困難なことが多く、緊急時の短期入所・居宅介護等の利用の難しさ、グループホーム・入所施設等の生活の場など資源の不足を感じた。日ごろの支援の繋がり・ネットワークの中で対応できるケースもあり、関係機関との連携した支援の必要性を感じた。</li> <li>・ 移動支援での余暇活動や通院等介助の利用をしたいという相談を多く受けるが、事業所探しに苦慮している。</li> <li>・ 引き続き関係者間との連携を行い、地域の社会資源の活用・充実のための委託相談支援事業所としての役割を実行・模索しながら相談業務にあたっていきたい。</li> </ul>
<p>委員 (どんぐり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数は資料のとおり。</li> <li>・ 電話相談、特に単身生活者からが多い。相談内容は日常生活上の困りごと、家族や通所先等での人間関係、身体の不調や病気の症状など。落ち着くまで丁寧に対応している。</li> <li>・ 家族からの相談が増加。内容は日中の過ごし方や医療機関との関わり方、サービス利用など。高齢の家族は、親亡き後を心配して引きこもりや生活面での自立の相談が多い。</li> <li>・ 一般就労している方やサービスの利用終了者など、障害福祉サービスの利用以外の相談の割合が大きい。日常生活の困りごと、金銭管理、食事のこと、人間関係のこと、病気</li> </ul>



	<p>のこと等多岐に渡る相談に対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神だけでなく、身体・知的の相談も少しずつ増えてきている。高校卒業時の発達障害の方のケースも受けている。</li> </ul>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>件数は資料のとおり。</li> <li>福祉の相談窓口には日々多くの相談があり、障害者の地域生活支援における相談、生活困窮者自立生活支援事業や就労支援など他事業と連携して対応するケースも多くある。</li> <li>障害福祉サービスの利用支援のほか、障害者手帳取得に関する相談や親亡き後の生活の相談等継続的な関わりと相談者の人生や今後の生活に寄り添いながら支援を行っていくケースがある。支援内容としては住居確保に関する相談や行政手続きが困難な方への同行。主治医とのコミュニケーションがうまくいかない方への受診同行等が多い。</li> <li>市内外の病院や他県から転入される方の相談、住居確保や障害福祉サービスの導入に関する相談が多くあった。</li> <li>こどもの相談に関しても通級・支援級等に在籍し療育に繋がっていない発達課題を抱えた児童に関する相談が、保護者だけではなく学校の教員からも多くなってきている。</li> <li>相談支援部会、くらし部会、しごと部会で部会長として、こども部会、こころ部会では副部会長として参画した。各部会の取り組みについては実務者会議で精査している。</li> <li>委託相談支援の役割を再確認し、障害福祉サービスに繋がっていない方へ支援が行き届くための協議を行った。基幹相談支援センターに相談があるケースについて本人のニーズに基づき継続的なケアマネジメントをしていくため、更に委託相談支援事業所と連携した支援が必要である。</li> <li>計画相談支援利用者の増加に伴い、相談員への負担が増加。質の高い計画相談支援の実施には相談支援専門員の増加とともに地域の中での相談支援全般の基盤整備が必要。昨年度2事業所の新規開設があり、今年度も1事業所の開設を予定しているが、なお不足した状況であり、継続的に新規開設の対応を行う。新規に開始した事業所に対しては、計画相談支援のアセスメントに同行し、計画案作成のスーパーバイズを行うなど人材の育成に取り組んでいる。今年度は委託相談支援事業所と連携しさらに強化を図る。</li> <li>介護保険事業との連携強化も進めていくため個別の連携事例収集し相談支援部会等で精査していきたい。</li> <li>地域移行・定着の件数は伸びていない状況が続いている。一方で精神科病院等からの退院に向けた相談は個々の事業所で対応し支援は行われている。近年各圏域の保健所で</li> </ul>

	<p>は指定一般相談支援事業を行う事業所の連絡会議などを開催し、地域相談支援の促進に取り組んでいる。精神障害者の入院から退院、また地域生活移行後も継続的に連携して支援していけるよう精神科病院との連携強化を図る。会議や研修の機会を通して他地域と情報交換を行うとともに個別の事例の積み上げを続けていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故や病気で障害を負った方を受け入れている病院からの相談は年々増加。内容は身体障害者等の退院後の住居確保や日常生活用具、障害福祉サービスの導入などが多い。今後も増加が考えられるため事業所で連携して対応する。</li> <li>・ 昨年度障害者虐待の通報件数は 15 件（前年度比-2 件）。通報内容は養護者からの虐待がほぼ横ばいであるのに対し、施設従事者等からの虐待が増加している。特に入所施設やグループホームなど密室性の高い事業所で多く発生している。多様な事業所の参入や慢性的な人材不足など要因は複数考えられるが、ほとんどが支援の専門性の欠如や、職員に対するスーパーバイズ機能の不足にあると考えられる。職員の人材育成は各事業所や法人に委ねられているが、地域での人材育成や支援の質の担保に取りくんでいくため自立支援協議会等での研修の機会の確保が必要。</li> <li>・ 昨年7月に条例が施行されたが差別に関する相談は多くなかった。その中でも住居確保に関する相談は複数寄せられた。個々の対応で相談があったケースについては解決しているが、不動産関係事業者やアパートの大家などの個人事業主への条例の啓発を継続的に行っていく必要がある。差別解消地域協議会とあっせん調整委員会の合同の事例検討の機会を初めて作る事ができた。今年度も継続して連携し周知啓発や個別の事例への対応を行っていく。</li> </ul>
会 長	<p>本日の議題は全て終了いたしました。 進行を事務局にお返しします。</p>
	<p>閉会</p>